

令和元年度第1回南薩保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について

日時：令和元年8月29日（木） 午後6時30分から午後8時30分

場所：南九州市知覧文化会館 大会議室

出席者：19名（代理出席4名を含む）

傍聴者：7名

内容

1 開会

2 報告及び意見交換

- (1) 市毎の医療提供体制の現状について
～日本医師会地域医療情報サイトより～
- (2) 地域医療に関する住民の声について
～鹿児島県民保健医療意識調査の結果について～
- (3) 関係機関と連携した地域医療構想の周知について
～全国健康保険協会鹿児島支部からの提案～
- (4) 平成30年度病床機能報告の結果について
- (5) 地域医療構想の進め方について
- (6) 地域医療介護総合確保基金（医療分）について
- (7) 外来医療計画について

3 その他

4 協議結果

(1) 協議事項

- ・第3回調整会議（令和2年2月頃を予定）において、全国健康保険協会鹿児島県支部が収集したアンケート結果の報告とリーフレット案に対する協議を行う。
- ・第2回調整会議（10月末～11月初旬で調整予定）において南さつま市立坊津病院のプランについて協議を行う。
なお、「個別の医療機関の2025年に向けた対応方針」については、圏域内4医療機関全ての公立・公的医療機関のプランを合意した後に協議を開始することとし、具体的な協議の方法や順序についても検討を行う。
- ・「休棟等を有する医療機関への対応」については、事務局が当該医療機関に対し非稼働理由や今後の運用見通しについて聞き取り調査を実施し、第2回調整会議において議長より報告することとする。
- ・地域における外来医療提供体制（外来医療計画）については、本調整会議で協議することとし、第2回調整会議において協議を行う。

(2) 意見

- ・外来医療提供体制の検討においては、二次医療圏毎のデータでは現状が見えない。実際の医療圏（指宿地区と他3市）で基礎資料の収集・分析をしないと医師の偏在や医療機器の共同利用の可能性は見えないので、二次医療圏より小さな単位でデータの収集・分析を行って欲しい。
- ・高齢や認知症に伴い運転免許返納をする患者が増える中、外来治療を必要とするが通院手段の確保ができない患者が増加している。地域の「かかりつけ医」となる診療所の増加は見込めないので、行政の方でコミュニティバスや乗り合いタクシー等、当該患者の交通手段の確保・充実について取り組んで欲しい。
- ・地域での看取りには24時間体制の往診が必要。地域で往診可能な医師が少ない現状をどう変えていくかを外来医療計画において検討して欲しい。
- ・医師確保においては「地域の中核病院に医療機器が揃えられている」ことが重要。若い医師に地域の医療機関に来てもらうためには、地域の中核病院で医療機器を共同利用するといったシステムも必要になってくる。
- ・「医師の偏在」というのは「量」の偏在であって「質」の偏在の部分の話はほとんど出ていない。患者さんや地域に愛情を持って「最後まで生活できる地域」を医療で支える医師が必要。
- ・医師確保のためには、地域枠等の若い医師に対しても専門医や様々な技術や経験を取得、キャリアアップできる環境を提供することが大切。患者の診療が忙しい中でも「医者を助ける医者」も必要。
- ・医師の確保に向けて、行政が大学ときちんと連携して取り組んで欲しい。